



創造都市ネットワーク日本 自治体サミット



文化庁 平成26年度文化芸術創造都市推進事業

創造都市ネットワーク日本 自治体サミット

2014年10月31日(金)

横浜シンポジウム

横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル9F

主催：文化庁／

創造都市ネットワーク日本 (CCNJ)

共催：横浜市

東アジア文化都市2014横浜パートナー事業／
ヨコハマトリエンナーレ2014応援プログラム

交差する、人・アート・文化



東アジア文化都市
2014横浜
Culture City of East Asia
2014, YOKOHAMA



2014.8.1-11.3
ヨコトリ
へ行こう
Yokohama Triennale 2014

スマートイルミネーション横浜 2013 撮影：アマノスタジオ

2014.10.31(金)
in 横浜シンポジウム

創造都市ネットワーク日本 自治体サミット

我が国の創造都市間の連携・交流を図るとともに、国内及びアジアをはじめとする世界の創造都市間の連携・交流の促進を目指し、創造都市ネットワーク日本(CCNJ)に参加する自治体の長との情報・知見・経験などの交流を深める。

13:00～13:20	あいさつ 青柳 正規(文化庁長官) / 林 文子(横浜市長)
13:20～14:10	第一部 基調講演 佐々木 雅幸(創造都市ネットワーク日本(CCNJ)顧問 / 文化庁文化芸術創造都市振興室長 / 同志社大学経済学部特別客員教授) 内 容 「東アジア文化都市を契機としたネットワーク形成」
14:10～14:40	休憩
14:40～16:45	第二部 首長サミット 主テーマ 「東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした創造都市・創造農村の更なる発展」 14:40～15:35 「文化景観や資産を生かした創造都市・創造農村の発信とCCNJの役割」 各都市では景観・食・産業・歴史などの特色を生かして創造都市・創造農村を実施している。これらの魅力的な文化景観や資産を生かした日本のまちづくりを広く世界にアピールするとともに、各都市が地域の意識高揚や他都市との切磋琢磨により一層の創造力強化を図ることができるよう、CCNJの役割を展望する。 榎本 政規(鶴岡市長)、山野 之義(金沢市長)、 酒井 隆明(篠山市長)、仲川 げん(奈良市長) ファシリテーター 太下 義之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター主席研究員 / センター長) 15:50～16:45 「現代の文化芸術の国際発信」 トリエンナーレ・ビエンナーレなどの芸術祭は日本国中で開催されている。東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、これらをはじめとする芸術フェスティバルを積極的に諸外国に発信し、世界における日本のプレゼンス向上につなげる方策を探る。 上田 文雄(札幌市長)、関口 芳史(十日町市長)、 門川 大作(京都市長)、林 文子(横浜市長) ファシリテーター 熊倉 純子(東京藝術大学音楽環境創造科教授)
16:45～17:00	まとめ

司会紹介



フリーアナウンサー / ラジオパーソナリティー レプロエンタテインメント所属

石田 紗英子

旧日本アジア航空株式会社で客室乗務員として勤務の後、ウェザーニューズ関東地区の第1期キャスターとして出演。テレビ番組出演やラジオパーソナリティーなどで活躍中。現在、BS11「リベラルタイム」、J:COM「横濱ツウ」をはじめ多くのテレビ番組に出演。

ごあいさつ



文化庁長官 青柳 正規

地域に住む住民の方たちが、自らの創意工夫により、文化芸術が持つ創造性で地域を活性化させる、文化芸術創造都市の取組は、成熟社会である我が国において益々重要な役割を担うものと考えております。

それぞれの地域に住まわれる方が、いかに、様々な文化資源を生かし、ブラッシュアップして、定着化し、そして長続きするようにしていくかが、文化芸術創造都市の根幹であり、この取組を推進することが、地域への誇りやそれに伴う活力につながり、ひいては、少子高齢化や地方の疲弊など、成熟社会として、様々な露呈する社会課題の解決や、国際的な貢献にも結びつくのではないかと考えます。

東京オリンピックパラリンピック競技大会が開催される2020年を、スポーツだけではなく、文化の祭典とし、日本全国を文化の力で盛り上げていきたいと考えておりますが、そのためには、皆様のお力が不可欠です。

文化庁としては、今後とも、CCNJのような、意欲のある自治体や団体の皆様で構成されたネットワーク組織や、自治体をはじめとした、様々な団体の支援をして参ります。皆様方の取組の一層の発展を期待致します。

プロフィール

1944年大連生まれ。古代ギリシヤ・ローマ美術史研究の第一人者として、30年以上にわたり、地中海各地の遺跡を発掘調査。1967年東京大学文学部美術史学科卒業後、ローマ大学に留学、古代ローマ美術史・考古学を学ぶ。東京大学副学長、国立西洋美術館長を経て2013年7月文化庁長官に就任、現在に至る。東京大学名誉教授。日本学士院会員。2006年紫綬褒章。2011年NHK放送文化賞受賞。

基調講演者紹介



創造都市ネットワーク日本(CCNJ)顧問 / 文化庁文化芸術創造都市振興室長 / 同志社大学経済学部特別客員教授 佐々木 雅幸

「創造都市」とは、21世紀に入って世界中で注目されている都市モデルであり、地域独自の文化資源とアートやデザインの創造性を活かして、新しい産業やライフスタイルの創出によって雇用を生み出し地域を再生させています。大量生産＝大量消費による「成長の限界」に突き当たった欧米の都市では、「欧州文化首都」事業など文化資本の活用や創造的人材の誘致による再生の試みが成功を収めており、日本においても各地でアーティストやデザイナーや文化団体、企業、大学、住民の連携によって推進されています。

ユネスコも、世界各都市の多様な文化産業が持っている発展可能性を発揮させる枠組みとして、2004年に「創造都市ネットワーク」事業を開始し、デザイン、クラフト、音楽、メディアアート、ガストロノミーなど7分野で世界41都市が登録され、交流を強めています。

文化庁による積極的な支援を受けて設立された創造都市ネットワーク日本(CCNJ)の特徴は大都市、地方中小都市、農山村と人口規模や地域特性の上で際立った多様性をもっていることです。これらが連携してプラットフォームを形成することで、文化多様性に根ざした創造的な都市と農村間の相互関係の発展が期待されます。また、2014年からは、日中韓三国で「欧州文化首都」の東アジア版とも言えるべき「東アジア文化都市」事業が成功裏に開始されており、アジア全域への広がりも展望されています。

今後、このネットワークを全国に広げてゆくことによって、日本社会が地域から創造的に発展・再生する新たな活力をもたらすこと、さらに、アジアにおいて平和で共生的な創造都市ネットワークを構築する礎となることも期待されています。

ファシリテーター紹介



三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター 主席研究員 / センター長

太下 義之

公益社団法人日展理事。公益社団法人企業メセナ協議会監事。公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)評議員。文化審議会文化政策部会委員。東京芸術文化評議会委員。大阪府・大阪市特別参与。沖縄文化活性化・創造発信支援事業(沖縄版アーツカウンシル)評議員。沖縄文化等コンテンツファンド・アドバイザーボードメンバー。鶴岡市食文化創造都市アドバイザー。文化経済学会<日本>理事。文化政策学会理事。コンテンツ学会理事。政策分析ネットワーク共同副代表など、文化政策関連の委員を多数兼務。



東京藝術大学音楽環境創造科教授

熊倉 純子

パリ第十大学卒、慶應義塾大学大学院修了(美学・美術史)。(社)企業メセナ協議会を経て、2002年より現職。アートマネジメントの専門人材を育成し、取手アートプロジェクト(茨城県)、アートアクセスあだち一音まち千住の縁(東京都)など、地域型アートプロジェクトに学生たち

と携わりながら、アートと市民社会の関係を模索し、文化政策を提案する。東京都芸術文化評議会文化都市政策部会委員、文化庁文化審議会文化政策部会委員などを歴任。

著書に「アートプロジェクトー芸術と共創する社会」(2014、水曜社)「社会とアートのえんむすび1996-2000——つなぎ手たちの実践」(共編、ドキュメント2000プロジェクト実行委員会発行、トランスアート)、「<地元>の文化カー地域 未来のつくりかた」(共著、2014、河出書房新社)など。

鶴岡市 TSURUOKA

鶴岡市では、山・平野・川・海といった変化に富む地形と、四季が明瞭な自然環境に恵まれており、農林水産業や酒造業などの伝統産業、また豊かな食材を活かした多様な食文化が発展してきました。

特色ある食文化として、自然との調和を大切に、知恵と工夫を発揮した農業の伝統により、「生きた文化財」といえる在来作物が50種類も継承されています。また、出羽三山の修験道や黒川能などの精神文化に基づいた独特の食文化が受け継がれています。

市では、産官学民による鶴岡食文化創造都市推進協議会を設立し、食文化産業の振興や、食育を通じて食文化の未来を担う人材育成、世界との食文化交流などに取組み、総合的な地域活性化を目指しています。

協議会の事業は多岐にわたり、食文化を振興するためのアーカイブ整備や食文化女性リポーター活動、食の祭典、料理店が連携した「鶴岡のれん」の開催などに取組んでいます。

また、「食から職の創造」を目指して、食文化創造都市を担う多様な人材育成を積極的に推進するとともに、食と他分野が連携した新たなビジネスモデルづくりなどにより雇用機会の創出を図っています。



上:出羽三山の精進料理
右:出羽三山の山伏文化と精進料理
デモンストレーション
(パリ・ブダベスト)



榎本 政規 市長

2009年10月鶴岡市長に就任。全国市長会理事、鶴岡食文化創造都市推進協議会会長、黒川能保存会代表理事、庄内観光コンベンション協会会長も務める。創造、観光、学術、安心、森林の5つをテーマとする文化都市をめざす鶴岡ルネサンス宣言を掲げ、食文化等の地域資源を活かした施策を積極的に展開。

金沢市 KANAZAWA

金沢には、豊かな自然や歴史的なまちなみが残るとともに、伝統文化が市民の暮らしの中に息づいています。その礎は、今から430年以上前、この地を統治した加賀藩主前田家によって確立されました。歴代藩主は、争いを避け、学術や文化を奨励したため、現在に至るまで戦禍に遭わず、往時のまちの骨格が今に残されています。

こうした、まちの個性を守り、磨き高めるため、全国に先駆けて景観の保全に取り組むとともに、各種まちづくり条例を制定し、個性豊かな独自のまちづくりを進めてきた結果、「歴史都市」、「創造都市」として、国内外から認知されつつあります。とりわけ、文化芸術の分野では、「金沢市民芸術村」や「金沢21世紀美術館」の開館を契機に、新たな文化創造に取り組んでいるほか、工芸の分野では、「金沢卯辰山工芸工房」を設立し、工芸家の育成に努めるなど、伝統文化を継承しながらも、革新的な取組を重ねています。

このような活動が評価され、我が国で初めて、ユネスコ創造都市ネットワークのクラフト分野で登録されたほか、明年5月のユネスコ創造都市ネットワーク会議開催も決定しています。この会議では、CCNJの代表幹事市として、国内外の創造都市の交流を促進するとともに、世界への発信に努めてまいります。



上段:金沢城石川門・ひがし茶屋街(重要伝統的建造物群保存地区)
下段:金箔・蒔絵・ユネスコ創造都市ロゴマーク



山野 之義 市長

1962年金沢市生まれ。慶應義塾大学卒。ソフトバンク(株)勤務を経て、金沢市議会議員を4期務める。2010年12月より現職。2014年4月CCNJ代表に就任。新たな都市像『世界の「交流拠点都市金沢」をめざして』を策定。国内外から人・モノ・情報の集積を図り、交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を続けていくことを目指す。

篠山市 SASAYAMA

篠山市では、丹精込めて育てられるお米や黒大豆、丁寧に手入れされた田畑や里山、山の斜面を利用した登り窯、そこから生まれる素朴で重厚な丹波焼、歴史の厚みを残す商家や武家屋敷、その町並み、大書院を囲む石垣とお堀、五穀豊穡を祈る祭りや民俗芸能、丹波杜氏の造り出す銘酒、美しい田園風景などを文化・芸術と捉え、これらに関わる生業を創造産業としています。

また、地域固有の文化・地域資源(食・農・里山)の保全と活用、地域の拠点・空間・景観形成、農業の六次産業化や着地型観光、空き家の活用など新しい価値や文化、産業を創出し、市民の暮らしの豊かさを高める「創造農村」の実現をめざし、これらの取り組みや日本の原風景を篠山から国内外に発信しています。

その中で、CCNJの幹事団体として、小規模都市ならではの利点や特徴を活かしCCNJの加盟団体などと交流を図るなど情報共有を進めていきたいと考えています。

その中で、CCNJの幹事団体として、小規模都市ならではの利点や特徴を活かしCCNJの加盟団体などと交流を図るなど情報共有を進めていきたいと考えています。



上:農村と農村文化を象徴する波々伯部神社の祭礼
右:「町家が美術館に変わる」をコンセプトに開催される河原町(重要伝統的建造物群保存地区)の町並みと芸術家のコラボレーション=丹波篠山まちなみアートフェスティバル



酒井 隆明 市長

兵庫県篠山市生まれ。2007年2月に篠山市長に初当選し、現在2期目。「世界のみなさん こんにちは」を合言葉に、農業の都、自然と文化、美しいまちなみと田園風景などの魅力を活かして、「ユネスコの創造都市ネットワーク」への登録申請を行うなどの取り組みを進めている。

奈良市 NARA

2016年の東アジア文化都市の国内候補都市に選定していただき、たいへん光栄であるとともに、胸の高鳴りを感じております。奈良市は、「日本人の心のふるさと」として毎年約1300万人の観光客が訪れる国際文化観光都市です。8つの世界遺産群をはじめとした文化遺産の宝庫であり、日本の伝統文化が息づいており、1300年にわたり先人たちに培われ守り伝えられてきた有形無形の文化の厚みがあります。それらは人々によって今日まで継承され、日本人の精神構造の奥深い部分を形作っています。

東アジア文化都市では、先人たちに培われたこの文化の厚みを未来へ益々発展させながら継承するとともに、1300年後に残すことのできる新たなヘリテージを、奈良ならではの取り組みによって、創造してまいります。

奈良市の創造農村の取り組みはまだスタート地点に立ったばかりですが、本年度から奈良ブランド推進課を設置し、定住促進や農林産物のブランド化、地域おこし協力隊の活用など、東部農村地域の振興に取り組んでいます。さらに、アーティストインレジデンスなど文化を生かした取り組みも進めてまいります。

これらについては、創造都市ネットワーク加盟都市の先進的な政策を参考にしながら、意欲的に取り組んでいきたいと考えています。



東部農村地域田原地区の大和茶の茶畑の風景



仲川 げん 市長

1976年奈良県生まれ。立命館大卒。2009年7月就任。現在二期目。入札制度改革や土地開発公社解散、ごみ行政刷新など市政改革に取組む。1300年の歴史を有する日本のルーツとして、世界から尊敬される都市をめざす。現在はわび茶の祖である村田珠光をテーマにした大茶会に力を入れる。AERA「日本を立て直す100人」に選ばれる。

札幌市 SAPPORO

札幌市は、2006年に「創造都市さっぽろ (sapporo ideas city) 宣言」を行い、市民一人ひとりが創造力を発揮することで、生活、文化、産業など様々な分野で創造的活動が展開され、そしてその魅力を力強く世界に発信していく取り組みを進めています。

今年7月19日～9月28日まで初開催した「札幌国際芸術祭2014」は、この「創造都市さっぽろ」の象徴的な事業として位置づけられています。

開催テーマは「都市と自然」。世界的に著名なアーティストである坂本龍一氏をゲストディレクターに迎え、歴史文化・風土、都市機能、地域経済や産業、暮らし方などをアートの視点で見つめ直すことで、都市と自然との共生のあり方を問う、従来の展示会の枠組みを超えた新しい形の芸術祭を目指して開催したものです。

また、札幌市は、2013年11月に「ユネスコ創造都市ネットワーク」において、アジア初のメディアアーツ都市として認定されました。

札幌市は、札幌国際芸術祭2014の開催と、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟を契機に、市民一人ひとりの創造性を核とした地域の文化力向上、メディア芸術の振興、創造都市の推進を共振させ、長期的な展望のもと、国際的な文化芸術都市としての歩みを進めていきたいと考えています。



上:坂本龍一+真鍋大度<センシング・ストリームズ— 不可視、不可聴>
右:鳥袋道浩<一石を投じる>
提供:創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会
photo:Keizo Kioku



上田 文雄 市長

北海道十勝管内幕別町生まれ。中央大学法学部卒業。1978年4月から札幌市で弁護士業務を開始。2003年6月に札幌市長に初当選し、現在3期目。「人を大事にすること」を原点に、「市民自治」と「市民のための市役所づくり」を市政運営の基本的方向として、市民が主役のまちづくりを進めている。

十日町市 TOKAMACHI

十日町市では、「人間は自然に内包される」という基本理念のもと、日本の原風景が残る里山を舞台に、2000年から「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を3年に一度開催しています。世界最大級の規模を誇る国際的な野外現代アートの祭典として、アート展示はもちろん、会期中はイベントやワークショップも数多く開催し、第5回展(2012年)では約49万人の来場者数を記録しました。2000年の第1回展から多くの海外作家が参加し、第5回展では海外作家による作品を新規・継続含め約100点展開しました。

特に恒常的な日豪交流の拠点としてオーストラリア大使館と豪日交流基金の支援のもと設立した「オーストラリア・ハウス」では、毎年アーティスト・イン・レジデンスや国際交流のプロジェクトを実施し互いの国、地域への理解を深めています。

また、「東アジア芸術村」と呼ぶエリアを設け、2009年以来継続的に中国、韓国、台湾などの著名な作家による作品を住民と協働で制作しています。2010年には芸術祭を通じて地元集落と台湾の2村が「姉妹芸術村」協定を結んだほか、2012年に制作した「東アジア芸術村センター」では、香港の団体が案内所の運営や食の提供などを通して交流を行いました。

2015年夏に開催する第6回展でも、アジアを中心とした国際交流のプラットフォームとして越後妻有地域を広く世界中へ発信していきます。



上:地域と国を繋ぐ国際交流の拠点。アンドリュー・バーンズ・アーキテクト作「オーストラリア・ハウス」
右:香港のセンス・アート・スタジオが地域住民とともに芸術祭の案内所を制作運営



関口 芳史 市長

東京大学を卒業後、野村証券株に入社。その後、十日町市に帰郷して織物会社に就職し、十日町市助役、同県三条市収入役を経て、2009年、十日町市長に就任。「選ばれて住み継がれる十日町市の実現」を目標に掲げ、豊かな里山を生かした芸術祭の開催や田舎経済と地域の活性化など、新たなチャレンジを続けている。

京都市 KYOTO

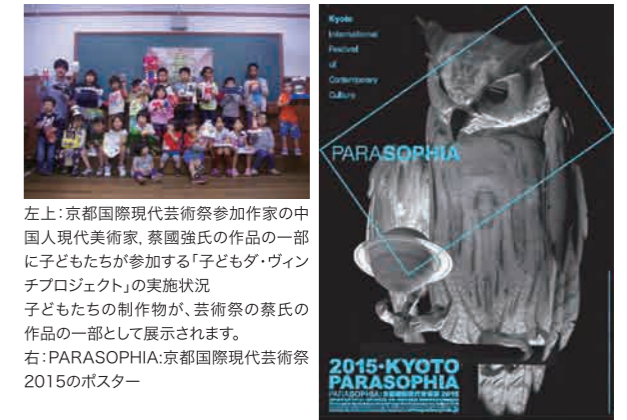
2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、世界から訪れる多くの人々に、京都の奥深い文化の魅力と、京都ならではのおもてなしを体感していただくまたとない機会です。

京都市ではこうした機会を捉え、京都の文化力に更に磨きをかけ、京都の魅力を世界に発信する取組を進めており、2015年はその重要な役割を担う最初のステップとして、京都府や経済界と連携し、「PARASOPHIA:京都国際現代芸術祭2015」と「琳派400年記念事業」を開催します。

「PARASOPHIA:京都国際現代芸術祭2015」は、2015年3月7日から5月10日までの約2箇月間にわたり、京都市美術館と、京都府京都文化博物館を主会場に、世界の第一線で活躍する現代美術作家約40名が参加する、京都初の大規模な国際現代芸術祭です。美術を軸に、世界中の人々が京都の文化を体感し、千年を超える悠久の地に新たな息吹を吹き込む対話の場となる芸術祭を目指しています。

同時に、2015年は本阿弥光悦が京都洛北鷹峯に光悦村を拓いてから400年の節目に当たることを記念し、「琳派400年記念事業」を開催します。後に「琳派」と言われる光悦、俵屋宗達らが創出した美の系譜は、多くの伝統工芸にとどまらず、幅広い領域において影響を及ぼし、今も世界中の人々を魅了しています。

京都市では、こうした文化芸術の振興を通じて、伝統産業の活性化、観光需要の創出、都市格の向上など、京都のまち全体の活性化を目指します。



左上:京都国際現代芸術祭参加作家の中国人現代美術家、蔡國強氏の作品の一部に子どもたちが参加する「子どもタ・ヴィンチプロジェクト」の実施状況
子どもたちの制作物が、芸術祭の蔡氏の作品の一部として展示されます。
右:PARASOPHIA:京都国際現代芸術祭2015のポスター



門川 大作 市長

1950年京都市生まれ。京都市教育長を経て、2008年2月より第26代京都市長に就任。徹底した「現地現場主義」をモットーに数多くの市民活動の場や市政の第一線を訪問。市民と共に汗する「共汗」と市民の視点に立ち、創造的な政策の「融合」をキーワードに、全国のモデルとなる市政改革を進めている。

横浜市 YOKOHAMA

横浜市では、文化芸術の創造性を生かして、「文化芸術振興」や「創造的産業振興」といったソフト施策と「まちづくり・都市デザイン」などのハード施策を一体的に取り組み「文化芸術創造都市=クリエイティブシティ」の取組を進めています。

その中核的的事业である横浜トリエンナーレは、日本から世界に向けて文化芸術を発信するナショナルプロジェクトとして2001年から始まり、横浜ならではの海や港の景観を生かした世界的な現代アートの展示会として、2014年までに5回の開催を重ね、日本を代表する現代アートフェスティバルとして着実に定着してきました。開催にあたっては、ナショナルアートパーク構想の『都心臨海部を今以上に市民の憩いの場となるように』、『世界水準の文化芸術活動の創造・発信』という考え方を実践しています。

第5回展では、5つ創造界隈拠点(BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区、象の鼻テラス、急な坂スタジオ、ヨコハマ創造都市センター)のアートプロジェクトと連携し、まち全体でトリエンナーレを盛り上げています。

3年に一度の開催年以外にもプレイベント等を開催しながら、アジア、特に東アジア各地のトリエンナーレやピエンナーレとの連携を通して、横浜ならではのトリエンナーレと創造都市横浜を世界へ向けて発信しています。



上:ヴィム・テルボア《低床トレーラー》2007年
Collection of MONA, Australia
撮影:加藤健
右:ヨコハマ・バトラトリエンナーレ2014



林 文子 市長

BMW東京(株)代表取締役社長、(株)ダイエー代表取締役会長兼CEO、日産自動車株式会社 執行役員等を歴任後、2009年横浜市長に就任。2013年より2期目。米フォーチュン誌「世界ビジネス界で最強の女性50人」選出(08年)等、受賞歴多数。現在、指定都市市長会会長、文化庁文化審議会文化政策部会委員等を務める。